

長岡花火大会

長岡市では毎年、日本最大級の花火大会が開催されます。2万発以上の花火が打ち上げられる長岡花火大会は、規模と観客動員数の両方の面で、長岡花火大会の中でもトップ3にランクインしています。

1世紀以上前の謙虚な始まりから、長岡フェスティバルは、世界平和のための継続的な闘争を表し、長岡空襲の犠牲者を追悼する3日間のイベントに発展しました。8月の最初の3日間に開催され、多くの人で賑わうため、市内の宿泊施設は数ヶ月前には満室になることが多いです。近年、8月2日と3日の夜には、日本一長い信濃川で打ち上げられる花火を見ようと100万人以上の人々が詰めかけました。最大のディスプレイは、川岸に沿って2キロ以上にもわたります。

その最も初期の形態は1879年に遡ります。時が経つにつれ、技術の向上とお祭りの評判が全国に広まるにつれ、人気と規模が大きくなっていきました。1920年代には、日本で最も人気のあるお祭りの一つとなりました。しかし、太平洋戦争の勃発をきっかけに、何年もの間、イベントが中止になってしまいました。

1945年8月の終戦直前、米軍の爆撃で長岡市のほとんどが破壊されました。長岡の人たちは、どんなことがあっても1年後に再び花火大会を開催することを宣言しました。1946年8月1日、長岡市では長岡維新祭が開催されました。以前は地域の誇りの象徴としての役割を果たしていましたが、戦後になってより深い意味を持つようになりました。現在、初日は *Peace Festival*（日本語では「平和祭」と呼ばれています）が中心となり、市内各地で様々なイベントが開催されます。その中には、日本の夏祭りを彷彿とさせる賑やかな「大民踊パレード」も含まれています。参加者は民族衣装を身にまとい、大人数で街中を練り歩きます。

また、「悠久太鼓ショー」の迫力ある太鼓の音を楽しむことができます。8月1日の夜には「越後長岡神輿パレード（越後長岡神輿渡御）」が開催され、全国各地のお祭りの特徴である神輿が町を練り歩く様子を見ることができます。

初日は午後10時30分に厳粛に幕を閉じます。長岡大空襲が始まった1945年8月1日、まさにその瞬間です。その日に亡くなった人たちの命をたたえ、永遠の平和を祈るために、3発の白い花火が空に打ちあがります。街中のお寺では、死者の冥福を祈る鐘が鳴らされています。

8月2日と3日の夜には、大花火大会が開催されます。最大の火薬を積んだ巨大な花火「正三尺玉」をはじめとする花火大会です。これらの玉は直径650メートルに噴出し、橋から川に流れ込む650メートルの花火「ナイアガラの滝」と一緒に打ち上げられます。

もう一つの大きな見どころは、2005年から常設されている「フェニックス」です。2004年の中越地震

で甚大な被害を受けた長岡の人々が、震災の傷を乗り越えて立ち上がる姿を象徴する3分間の花火です。

この部分は音楽の伴奏にも合わせています。伴奏には、2003年のヒット曲である平原綾香の「ジュピター」が選ばれ増田。長岡市では、この曲の持つ元気の出る曲調とキャッチーな曲調が人気を博し、「我慢と再生」をテーマにしています。

その名の通り、百発の花火を連続して打ち上げる「米百俵 (100 Bags of Rice)」。そこれがカスケード効果を生み出し、夜空を彩ります。この3日間のスペクタクルのフィナーレを飾るにふさわしいものです。

花火の正確な日程や開催時間は年によって異なりますが、8月2日と3日はいつも19時15分頃から始まり、21時10分頃には終了します。ただし、8月2日と3日の花火大会は全体的に19時15分頃から始まり、21時10分頃には終了します。

宿泊施設には限りがありますので、長岡市外のホテルを予約することをお勧めします。鑑賞会場から駅までの帰路は大変混雑しますので、時間に余裕を持ってお越しください。

長岡市では、お祭りに行けない人のために、最新の3D映像で花火を体験できるチャンスも用意しています。映像は長岡駅から歩いてすぐのシティーホールプラザ、アオーレ長岡市役所にあります。この映像では、最新の音響・映像技術を駆使して、3日間のイベントの醍醐味を映像で紹介しています。240インチのスクリーンで花火を体験しながら、日本語の音声解説（リクエストにより、英語字幕設定可能）で、花火の意味や長岡の過去と現在との関連性を説明しています。

長岡花火大会は、観客を楽しませ、感動させるイベントです。長岡花火大会は、長岡市が戦禍に見舞われたことを記念すると同時に、長岡市の平和への強い思いを示すイベントでもあります。